

# 生友

昭和60年10月1日発行 第2号  
発行 東海大学生友会

事務局

〒259-12 平塚市北金目1117  
東海大学工学部生産機械工学科内  
TEL 0463-58-1211  
東海大学生友会

## 第一回総会開催さる

昭和五十七年十一月三日午前十一時より、建学祭が行なわれている東海大学湘南校舎実験七棟二階機械系第一ゼミ室にて、「生友会」第一回総会が開催され（出席者、小松会長以下十五名）、左記の件が審議の後、出席者全員賛成をもって原案通り承認された。審議内容の主なものは左記の通りである。

1. 昭和五十六年度および五十七年度事業計画について（年報「生友」の発行の件・会員名簿発行の件等）
2. 昭和五十六年度 会計報告（詳細は次ページ参照下さい）
3. 新幹事承認の件（新幹事として太田絃昭氏（昭四十六年度修士）を承認）

審議終了後、出席者全員で、今後の会の進め方について活発な話し合いが自由討議の形で行なわれた。今後の会の運営に当って参考とすることとなった。総会終了後は大学の同窓会総会へ参加し、散会した。

## 主な記事

1. 第一回総会開催さる
2. 新入会員紹介
3. 大学関係記事
4. 会からのお知らせ
5. 編集後記

## 新入会員紹介（\*印代議員）

今回新規に入会された方々は次の通りです。（昭和六十年八月六日現在）

（昭和五十七年度）		（昭和五十八年度）	
石田正孝	影山国春	岡嶋剛也	奥脇達也
後藤光秀	鈴木恒久	*竹内生好	青木順之
林 信浩	堀 誠	日下 明	竹田幸弘
*吉田和也	富田光洋	井出春良	小笠原尚
安斎義美	笠原篤宏	更科正孝	白石吉成
佐々木芳綱	田村靖樹	永井秋男	名越 勉
宮寺義幸	長瀬一夫	飯田喜紀	中江信裕
平山正道	上田真巳	渡辺峰良	池末義篤
田村光範	土井哲哉	木下卓哉	桜井道夫
川村 淳	木村昌幸	芦川一聡	*岩根隆充
片岡 考	佐藤照賢	茂山 強	松本佳久
		*横田光明	今野敬博
			藤田美貴
			深田充博
			小林良訓
			村上啓介
			石原正夫
			望月 徹
			森井敏行
			高橋 宏
			佐々木信也
			富田高臣
			長島利夫
			河野有紀
			岩附美智夫
			法月哲也
			加藤嘉宣
			森 正次
			近藤光雄
			松村信弥
			天野 博
			中村隆行
			後藤宏知
			洪谷祐次
			天野 博

## 工学部新館（十二号館）着工

須藤雅弘 高田秀雄

湘南校舎の機械系の建物の跡地（実験三棟・四棟・五棟・七棟）に待望の地下一階・地上十一階と地下一階・地上六階の建物を組み合わせた工学部新館（十二号館）の工事が昭和五十九年七月より開始され、昭和六十一年八月末をメドに現在行なわれている。

この建物には機械系三学科を中心とした教官室・製図室・研究室（実験室）・工学部長室等が入る予定であり、一部地下に、生産機械のNC工作室、動力機械の研究室の一部、および機械工場が入り使用されている。

## 興津史朗教授逝去

生産機械工学科前主任教授・札幌教養部長の興津史朗教授が昭和五十七年十二月十七日午前七時四十三分、急性心不全のため札幌医科大学附属病院で逝去されました。享年七十三歳。

興津教授は、昭和十一年名古屋高等工業学校卒業後、三井鉱山株式会社に入社。昭和三十六年秋田大学鉱山学部教授。昭和四十六年より工学部生産機械工学科主任教授。昭和五十四年より札幌教養部長となり、東海大学の発展と充実に尽力されました。

昭和56年度 生友会 会計報告

(昭和56年9月7日～昭和57年3月31日)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費(224.5口)	449000	同窓会設立生友会負担金 (20周年記念行事委員会負担金)	118980
		1) 生友会通信費	90000
		2) 同窓会設立準備委員会合費	24480
		3) 生産大学事務員への 設立準備手伝いお礼	4500
		金銭出納帳	120
		印章費	9372
		1) 生友会印	4300
		2) 生友会住所印	5072
		通信費	6000
		1) 印刷費(コピー代等)	2000
		2) 通信費	4000
		振込口座開設費	50
		のし袋	250
		昭和56年度卒業パーティ、祝金	20000
(小計)	449000	(小計)	154772
合 計	449000	差引残高(昭和57年度繰越)	294228
		合 計	449000

上記会計報告に対して昭和57年11月3日の総会において承認。

計 報

生産機械工学科の教職員で左記の方々がご逝去されました。ご冥福をおいのり申し上げてます。

興津史朗教授

(昭和五十七年十二月十七日)

後藤年治一級技術員

(昭和五十八年五月十二日)

山口広美補助員

(昭和五十九年四月二日)

新任教員および職員

昭和五十八年四月一日付

竹内正顕助教授 東京工業大学より着任

専門 熱工学関係

昭和六十年四月一日付

西本 廉 教授 東京工業大学より着任

専門 材料・工作等

木村 誠 教授 工業技術院機械試験所

より着任

専門 自動制御関係

吉沢好良 二級技術員

昭和五十九年より着任されてきたが正式に本年より決定した。特に就職関係の事務を担当されますが、生産機械工学科出身ですので、今後「生友会」の事務もお願いすることになります。

## 就職状況

ここ数年の生産機械工学科卒業生の就職状況は良好であり、一部・二部上場会社への就職者が年々増加しており、昭和五十九年度の実績によれば、就職希望者の三十八パーセントに達している。この数値は昭和五十八年度と比較して十パーセントの増加である。

昭和五十九年度の卒業生の主な就職先は左記の通りである。

- 日産自動車 本田技研工業 日本精工
- 松下電気産業 カシオ計算器 富士通
- 富士電気製造 シャープ 日本ビクター
- ミネベア ファナック ウシオ電気
- 三井鉱山 マツダ 旭硝子 トリオ
- 日本IBM 古河鋳業 アルプス電気 等

(昭和六十年産生産機械工学科就職マニュアル参考)

## 研究室紹介

材料基礎工学研究室

材料基礎工学研究室(松原・笹沼研)は今年で設立十一年目を迎える。研究室の研究内容としては、摩擦及び潤滑関連テーマを中心としてその名を示すように材料の基礎に関するものを行なってきた。すでに多数の卒研生が卒業し、それぞれ社会において活躍しており、現在も12名の卒研生が研究に励んでいる。現在の研究テーマは潤滑油及び高含水作動液に関するものが3テーマ、プレスばめ及びころがり摩擦を加えて計5テーマである。これらの研究の中で、高含水作動液とプレスばめは比較的最近始められた研究であり、その内容は次の通りである。

高含水作動液は通常水を90%以上含む作動流体といわれており、難燃性作動液の一種である。代表的なものに、O/Wエマルジョン系があり、水以外の主成分は鉱油や界面活性剤で、他に種々の添加剤が加えられている。この作動液の長所としては、不燃性、低価格などが上げられ、短所としては潤滑性能の低下等が上げられている。難燃性作動液には第二次大戦中、米国海軍により航空機の作動液として開発研究が始められ、日本国内においては昭和三十七年に水グリコール系作動液が国産化されたという古い歴史がある。高含水作動液については、防災及びコスト等の面から使用範囲が広がりつつあるが、問題点も多く、性能の向上が望まれており、大

きなプロジェクトが組まれて研究されている。本研究室においては、高含水作動液の基礎的な性質を把握し、性能を向上させるために、作動液の粘弾性の温度依存性や流動曲線を測定している。

次にプレスばめに関する研究であるが、焼ばめという言葉は知っているがそんな言葉は初めて聞く、という方も多いことと思う。プレスばめとは熱処理等を行なわないで、穴より少し大きめの軸を穴に圧入して固定する方法であり、現在はこの方法で十分な強度が得られ、すでに小型エンジンのクランクロッドとシャフトの固定等に使用されている。

本研究室においては、プレスばめの強度に係する因子を選び、実験計画法や普通実験により、これらの因子が強度に及ぼす影響を検討している。

また、生産機械工学科の方針としてマイコン教育に重点が置かれているので、研究室にもマイコンが導入され、データ処理や計測、教育等に利用されている。

研究室の最近の大きな変化としては、工学部新館建設に伴う研究室及び実験室の移動がある。旧実験棟7棟にあった実験室は、実験棟6棟2階(旧主任研)に移転を行なった。本研究室の実験は、振動や摩擦力の精密測定なので、新館建設工事中は実験不可能な期間もあったが、本年四月からは正常に復し、卒研生も順調に実験を行なっている。また研究室は、現在F館2階(松原教授)と5号館1階(笹沼講師)に分

散しているが、新館落成後は新館7階に移転する予定である(来年三月頃)。工学部待望の新館なので、卒業生の諸君、見学を兼ねて是非遊びに来て下さい。(文責 笹沼)

### 会からのお知らせ

#### 第2回総会開催予定

第2階総会を昭和六十年十一月三日(日) 建学祭中に開催する予定で現在準備中です。現在予定している主なる議題としては、

1. 役員改選
  2. 会務および会計報告
  3. 会則の改正
  4. その他(同窓会代議員の件等)
- ですが、詳細決定次第送付致しますので御協力をお願い申し上げます。

#### 会員ひろばへの投稿を

前号でもお願いしましたが、会員の皆様の御意見をのせたいと思っておりますので事務局まで投稿下さい。内容・字数等自由としますのでよろしくお願い申し上げます。

#### 広告の募集

広告を広く募集しますので、御希望の折は事

務室まで申し出て下さい。御相談致します。新入会員をふやそう

生友会に卒業生の方でまだ入会されていない方が多数おられます。会員の皆様のお知り合いの方がおられましたら入会をおすすめ下さい。

#### 会員名簿発行の件

会員名簿(生友会入会者のみ)につきましては昭和五十九年度または六十年卒業生までを入れるようにしたいと思っております。現在五十六(五十九年度生の最終チェック)をしていて段階です。できるだけ早く発行できるように努力中です。また生産機械工学科卒業生全体の名簿ですが、財政的に発行が困難です。今後、発行できるよう財政的な努力が必要と思われますので、事務局としても努力致しますが、会員の皆様の御協力をお願い申し上げます。

#### 会費納入のお願い

左記の方法により会費納入をお願い申し上げます。(年額二千円)

一、郵便振替

(口座番号)

横浜一六一四八六二四

(口座名称)

二、現金書留

(通信先)

神奈川県平塚市北金目一一一七

東海大学工学部生産機械工学科内

東海大学生友会事務局

電話 〇四六三一五八一―二二一

(内線 三四五七)

#### 編集後記

生友会々報「生友」第2号をお届けします。創刊号発行してから三年たちますが、財政的にも、時間的にも余裕がなく発行がはかばかしくなりました。おわび申し上げます。今後はできるだけ定期的に発行できるように努力を致しますので皆様の御協力をお願い申し上げます。

また、「会員ひろば」を取り入れて、会員の皆様の親睦向上をはかりたいと思っておりますので、投稿をお願いします。会報や会の運営等に御意見・希望等ありましたら御連絡下さい。(T・K)